

○委員長（菊川敬人）

皆さん、おはようございます。ただいまの出席委員は11名です。定足数に達しておりますので、これより予算特別委員会第3日目の会議を開会いたします。

午前 9時00分 開議

○委員長（菊川敬人）

本日の予定は、議案第14号 平成29年度開成町国民健康保険特別会計予算から、議案第19号 平成29年度開成町水道事業会計予算までの詳細質疑を行います。その後、各議案別に討論、採決を行い、委員長報告の調整まで行います。

それでは、議案第14号 平成29年度開成町国民健康保険特別会計予算を議題といたします。

説明委員として出席の担当マネージャーに申しあげます。発言がある場合は挙手の上、私から指名がありましたら、マイクのスイッチを入れ、課名、名前を述べてから発言をお願いいたします。

では、国民健康保険特別会計の歳入歳出予算について、詳細質疑を行います。質疑をどうぞ。

下山委員。

○7番（下山千津子）

7番委員、下山です。予算書のページで、219ページ、説明書54、55ページでございます。特定健康診査等事業費といたしまして1,226万3,000円が計上してございます。昨年度の28年度は、1,221万2,000円で、昨年並みの予算でございます。集団検診の受診率を上げるために、年々様々な努力をされております。受診する時間もまた、待たされることもなく、スムーズに行って、町民からも大変喜ばれている現状でございます。今後も受診率のアップにつながっていくと思うのですが、平成27年度、28年度の受診率が分かれば、教えていただきたいと思っております。

○委員長（菊川敬人）

保険健康課主幹。

○保険健康課医療保険担当主幹（岩本美樹）

保険健康課の岩本です。今の質問にお答えいたします。受診率ですけれども、26年度、特定健診受診率は37.8%でございます。27年度につきましては、39.1%ということになってございます。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

下山委員。

○7番（下山千津子）

26年度は37.8%で、県下で3位ということは存じ上げておりましたが、27年度もそれよりもアップされているということで、年々努力の成果が出ているのかなと感じておるわけでございますが、29年度の今年度の受診の創意工夫というか、毎

年課題はあるとは存じますが、今年度はどのような取り組みをされるのか、お伺いたします。

○委員長（菊川敬人）

保険健康課主幹。

○保険健康課医療保険担当主幹（岩本美樹）

保険健康課の岩本です。今の御質問にお答えをさせていただきます。毎年5月下旬頃、特定健診の受診勧奨ということで、40歳から74歳までの国民健康保険の被保険者、4月1日現在にいらっしゃる被保険者に対して、全員に勧奨通知を差しあげているところでございます。振り分けとしては、年配の方はお医者さんにかかっている方が多いということで、あとは御希望にもよりますが、大抵は個別集団というところで振り分けさせていただいて、あとは若い方は集団検診という振り分けを基本にさせていただいております。

ただ、通知の中には、希望によって、選択ができるということも書いてございまして、今、受診が一番多いのは、年配の方で65歳以上の方、そちらの受診率が主なところなんですけれども、今、課題としてございますのは、40歳から50歳の若い世代のところはなかなか自分の、まだ健康だから大丈夫だろうとか、あとは子育てとか、仕事で忙しいという世代でございまして、なかなか受診率に結び付いていかないこともございますので、昨年ぐらいから電話勧奨というところで、国保連合会のそういう事業を使わせていただいて、専門的な方をお願いをして、個別に受診勧奨をさせていただいております。

あとは、いろいろ開成町は県内3位というところで、まだまだ受診率としては低いところではございますが、一応3位というところではございまして、いろいろな手段を用いて受診を勧奨しているところではございます。ですから、今までやってきたことは基本で、そのまま継続させていただきながら、若い世代を取り込んでいくような手法をもっと検討して考えていきたいと思っております。

○委員長（菊川敬人）

保健福祉部長。

○保健福祉部長（田辺弘子）

若干補足をさせていただければと思います。特定健診そのものは、受診率を上げていくというところがあるのですが、それとあわせて特定保健指導ということで、きちんとその何かしら係る必要がある人に対して、しっかり保健指導して、改善につなげていくというところが、一つ大きなポイントになっております。今の開成町の状況としては、特定保健指導の率も80%を超えるというような形で、県下ではトップというところではございますけれども、今回、いろいろなデータを整理する中で、今までは医療費のトップというところ、高血圧というところ、1番目に上がっていたのですが、最近の傾向としては、腎不全だったり、あと糖尿病が、明らかに県内の中でも優位に多いところが見られておりますので、今後は少しできるだけ高血圧も含めてなんですけれども、糖尿病というところで、重症化予防というところで少し

力を入れて、今後取り組んでいこうと言うことで中では検討しております。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

下山委員。

○7番（下山千津子）

様々努力をされているということで、大変喜ばしいことですが、生活習慣も現在は様々違っておりますので、今後もきめ細かな対応をされて、町民の健康管理に取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

前田委員。

○4番（前田せつよ）

4番、前田でございます。今のことに関連いたしまして、質問させていただきます。県下のトップクラスということで、大変に本当に期待して、また、県を引っ張っていくような立ち位置で、今後も進んでいただきたいと思いますという視点から御質問をさせていただきます。

今、県では、未病というキーワードで県内を駆け巡っている状況でございます。未病という定義は東洋医学からきたものでということで、健康と病気の間を連続的に変化している状態ということで、この未病というキーワードが、まだまだ町内の中では浸透していないと感じるところでございます。その点も踏まえて、やはり隣町に県の未病のセンター的存在があるわけでございますので、それを鑑みた形で勧奨につなげていくというお考えはございますでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

保険健康課長。

○保険健康課長（亀井知之）

お答えさせていただきます。確かに委員がおっしゃるように、県が未病、未病という割には、あまり浸透していないという実態はあると認識をしております。ただ、一般会計の御質問でもございましたけれども、29年度に町としても、未病センター、これを新規に登録しまして、町民の方に使っていただくというような作業をして、今、準備中でございますし、近隣では、山北町で既にそういうコーナーをつくっております。また、大井町の高台のところ、この辺の中心となるべき施設をつくと、これは県の主体ですけれども、そういうお話もございます。私どもとしては、29年度未病センターの開設も含めて、域内の中で、もうちょっと未病について浸透させていって、私どもとしても積極的にPRしていく必要があるかと考えております。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

前田委員。

○4番（前田せつよ）

ぜひともその点、御尽力いただきたいと思います。未病といいましても、子どもの未病対策から始まり、最後には、介護予防の軽度の認知障がい対策まで、大変広い範囲にわたっているとございます。具体的に申しあげて、うちの町で本当にすばらしい取り組みの中で、いろいろな診断を健康診断で待っているテントの中で、その待ち時間を使って勸奨をしたりとかという形で、職員の方が御尽力いただいているというのは、大変に具体性もあって、とても良い取り組みではないかなと。まずもって、大きな紙にもものを書いて、いろいろ要望のPRをなさっているというところに、まずはそこにもしっかりと未病のキーワードを持ち込んでやっていただければと希望をいたします。

○委員長（菊川敬人）

そのほかに質疑ございませんか。よろしいですか。

石田委員。

○5番（石田史行）

5番、石田史行でございます。予算書200ページ、201ページ、それから、説明資料50ページ、51ページの繰入金ですね。その他一般会計繰入金3,500万円計上ということで、これは法定外繰入金というものでございまして、これは前年と同額を計上されているわけですが、この理由を伺いたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

保険健康課長。

○保険健康課長（亀井知之）

お答えさせていただきます。法定外の繰入金につきましては、以前は国民介護保険の下支えという意味もあって、福利厚生的な見地から一定の繰入を行ってきたということもございしますが、基本的には、国保会計の中で賄うべきであろうと。一般会計の税金からの繰入というのは、原則行わない方向でいきたいと考えてございます。

そういう中で、以前は1億円を超えるような繰入金を行っていた時期もありました。国保会計、かなり厳しい時期もございましたけれども、年々下げておりまして、昨年3,500万円、その前は6,000万円ほどでした。29年度につきましても、一応前年並みの3,500万円というような規模で予算立てはさせていただいておりますけれども、これがありきということではなくて、30年度の広域化を見据えながら、なるべく減らしていく方向で検討していくというような基本的な認識は持っております。

その中で予算の組み入れの中では、最低限のラインとして、前年度レベルの予算立てはさせていただきたいと、給付が伸びているような状況もございしますので、前年度と同額3,500万円で、私ども現況としてはお願いをいたしまして、財務当局で、ではそこは3,500万円というような、そういう結果で計上させていただいた。そういう状況でございます。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

ご答弁ありがとうございます。一応、念のため確認なんですけれども、昨年、国民健康保険税の税率上げる条例について、私たちも承認させていただいたわけですが、それは主たる目的として、法定外繰入金というものが、やはり減らしていかなければいけないと。一般会計の負担を減らしていかなければいけないというところだったと思いますが、その辺の税率をアップしたにもかかわらず、同額というところの関係ですね。一応確認させていただきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

保険健康課長。

○保険健康課長（亀井知之）

お答えさせていただきます。税額、確かに去年ですね。委員に御承認いただきまして、上げさせていただきました。ただ、結果的に会計、入りと出を考えたときに、国保会計の被保険者というのは下がってきております。したがって、給付が延びているという状況から、どうしてもやはり歳出が増えてしまうということがございますので、昨年、上げさせていただいたということは非常にありがたいのですけれども、なかなかそれでは賄い切れないというところもありまして、3,500万円、一般からの繰入をお願いした。そういう経緯がございます。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

分かりました。やむを得ないのかなというところではございますけれども、最初、課長から冒頭御説明いただいたように、できる限り減らすということを収支のバランス、とっていただきたいということは、引き続き努力していただきたい。特定健診の受診率の向上、これも先程ありましたけれども、取り組んでいかなければいけないと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

ほかに質疑ございますか。よろしいですか。

（「異議なし」という者多数）

○委員長（菊川敬人）

では、以上で議案第14号 平成29年度開成町国民健康保険特別会計予算について、質疑を終了します。